

令和7年度実施 協働事業

事業報告書

	事業名	パートナー	担当課	ページ
①	多頭飼育崩壊等の不適切飼育防止の取り組み事業	WAN'S LIFE 湘南里親 NPO 法人平塚のら猫を減らす会	環境保全課	P1
②	市立学校教職員へのリミックの周知普及と活用支援事業	あいあいリミック	教育研究所 子ども教育相談センター	P12

平塚市

令和7年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長

団 体 名	WAN' S LIFE 湘南里親 NPO 法人平塚のら猫を減らす会
団体代表者	WAN' S LIFE 湘南里親 代表 桐田 久美子 NPO 法人平塚のら猫を減らす会 理事長 小泉浩
事業担当課名	環境保全課
事業担当課長	高梨 里志

令和7年度に実施しました協働事業について、次のとおり事業報告いたします。

事業名	多頭飼育崩壊等の不適切飼育防止の取り組み		
事業開始年度	令和7年度～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	870,200 円	内 訳	市の支出 870,200 円 ----- 団体の支出等 円
事業の概要	<p>近年、全国的に、ペットの多頭飼育崩壊や飼い主の入院、入所、死亡等によるペットの置き去り等の、不適切飼育の問題が増加しており、平塚市でも、これまで行政やケアマネジャー・ホームヘルパーら介護事業者、そして個人からの依頼で、ペットの緊急保護をした事例がある。</p> <p>このような不適切な飼育事例が発生する背景として、飼い主の社会からの孤立や経済的困窮、動物への強いこだわりといった精神面の課題等があり、市民活動団体主体のペットに対する働きかけだけでは、根本の解決が難しく、活動に限界がある。そのため、行政と協働し、事例を発生させないための「予防活動」と事例が発生してしまった場合の「個別対応」を行う。</p>		
具体的な実施内容	<p>協働事業実施のために、毎月1回、団体と行政による定例会議を実施した。</p> <p>【予防活動】：啓発物品の作成と、それを利用したプッシュ型の予防啓発活動を実施した。</p> <p>啓発物品は、ペットが家に居る事を周囲へ知らせるための「情報カード」と自宅へ掲示する「情報シート」が9月末に完成。いずれも、「飼い主に何かあった時のためのペットに関する緊急連絡先」を記載する欄を設け、飼い主に自分が飼育を継続できなくなった時のペットの行く先を考えるように周知する目的も兼ねている。</p> <p>協働事業と啓発物品の周知のため、一般的に不適切飼育の状況へ陥りやすいとされる、高齢者や福祉的支援が必要な飼い主の身近な存在である、民生委員児童委員やケアマネジャー、ソーシャルワーカーの会議等に参加した。</p> <p>参加した会議等は以下のとおり。参加者は団体から1～2人と行政職員。</p> <p>①9月24日 障がい福祉相談支援事業所の定例会議</p>		
実施年月日、実施内容、参加者等をご記入ください。			

- ②10月16日 障がい福祉課担当者会議
- ③10月20日 ひらつか地域介護システム会議
- ④10月下旬 地域包括ケア推進課が発送する、補助金を交付している市内の高齢者のグループ（150団体）への通知にお知らせを同封
- ⑤11月13日 ほっとステーション平塚（精神障がい対象相談支援事業所）
- ⑥11月17日 サンシティ平塚（知的障がい対象相談支援事業所）
- ⑦11月26日 地域包括支援センター管理者会議
- ⑧12月16日 しせん相談室（身体障がい対象相談支援事業所）
- ⑨12月4日 民生委員児童委員定例会長会議
- ⑩3月6日 田村地区民生委員児童委員定例会
- ⑪3月6日 港地区民生委員児童委員定例会
- ⑫3月7日 四之宮地区民生委員児童委員定例会
- ⑬3月11日 土沢地区民生委員児童委員定例会

この他、福祉部との連携強化のための意見交換会を7月9日に実施。

【個別対応】：随時、飼育困難となったペットの里親探しのサポートや一時保護を実施した。

「里親探しのサポート」

飼育継続困難となった場合、飼い主による里親探しを行わないと、神奈川県での収容ができないため、協働事業でサポートしている。いずれの事例も、県動物愛護センターや保健所へは相談をした上で、協働事業を実施している。

事例① 生活困窮により飼育継続困難になった事例

近隣住民から相談が入った。

猫7匹を飼育しており、5匹は引き取り先がすぐに見つかったが、2匹の引き取り先が見つからず、里親募集のポスターを掲示した。

引き取り先が見つかり、解決済み。

事例② 飼い主の入所により飼育継続困難になった事例

福祉部から相談が入った。

猫1匹が自宅に残されてしまったため、里親募集のポスターを作成・掲示。

引き取り先が見つかり、解決済み。

事例③ 飼い主の入所により飼育継続困難になった事例

家族から相談が入った。

家に残された猫3匹の里親探しのためポスターを作成・掲示。

引き取り先が見つかり、解決となった。

事例④ 飼い主の入所により飼育継続困難になった事例

家族から相談が入った。

家族も高齢者で、ポスターの作成等ができないため、ポスターを作成・掲示すると共に、里親希望者が現れた際は、適正を見極めるために、団体の協力を得る流

れとなっている（現在進行中の事例）。

「一時保護の実施」

飼い主が飼育継続困難となり、動物愛護センターへの収容の目途がたっている場合で、収容までの飼育も難しい場合に、飼い主の同意を得た上で、一時保護を実施する。

事例① 生活困窮により飼育継続困難になった事例

福祉部から相談が入った。

住所不定状態の相談者が大型犬1頭を連れており、犬がいることで、施設入所ができない状態だった。

収容まで時間がかかるが、その間の飼育ができなかったため、一時保護を実施。

引き取り先が見つかり、解決となった。

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

令和7年度実施協働事業 決算報告書

		項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)	
①	収 入	市の支出	870,200	870,200	0	負担金	
		団体の支出					
		事業収入					
		収入合計	A 870,200	B 870,200	B-A 0		
②	支 出	交通費	30,000 (30,000)	400 (400)	-29,600	11/17相談支援事業所訪問時の交通費 400円 ※自家用車で参加でき、交通費がかからない場所が多かったため減額	
		消耗品費	3,000 (3,000)	3,014 (3,014)	14	3/26 啓発物品配布用OPP袋 3,014円	
		印刷製本費	110,000 (110,000)	108,795 (108,795)	-1,205	9/29情報カード・情報シート 各14,000部印刷	
		委託料	575,000 (575,000)	243,664 (243,664)	-331,336	9/29情報カード・情報シートのデザイン作成委託 50,000円 1/28一時保護に関する支出 (入院費のため委託料で支出) ※一時保護対応の執行残が出たため、減額	
		雑費	152,200 (152,200)	550 (550)	-151,650	9/29 委託料の振込手数料 550円 ※一時保護中のエサ代などがかからなかったため、減額	
			()	()			
			()	()			
			()	()			
		支出合計	C 870,200 (870,200)	D 356,423 (356,423)	D-C -513,777		
③	収支決算額	B 870,200 円	-	D 356,423 円	=	513,777 円	【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	WAN'S LIFE 湘南里親 NPO 法人平塚のら猫を減らす会	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	多頭飼育崩壊等の不適切飼育防止の取り組み	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	お互いが「不適切飼育を予防する・解決する」という共通の目的を持って、事業を実施できた。 啓発物品を作成した後の周知の重要性や個々の相談への対応等、案件ごとの目的・目指す目標を共有しながら事業を進めることができた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	団体は各々の専門性・経験を活かして啓発物品の企画や、相談への対応を行い、担当課は事業がスムーズに進行するように、技術的支援や関係機関との調整を行うなど、適正な役割分担に基づいて、事業を実施できた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	毎月の定例会議に加え、啓発物品作成のためのメンバーを招いた会議も開き、意思疎通や検討を十分に重ねることができた。 また、日々の質問事項等はメールでの共有を行う事で、定例会を補った。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	お互いの立場を理解し、尊重しながら、対等な立場で事業を進めることができた。 役割分担をよく理解することが、お互いの尊重につながると感じている。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	お互いの持っているノウハウやスキルを出し合い、協力することで、事業を円滑かつ計画的に進めることができた。 また、担当課が間に入り、福祉・介護部門と意見交換をすることができた他、制度に関する理解も深まり、協働による効果が得られた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	団体や市の意見を出し合いながら、新たな啓発物品が完成した事は、大きな意味があると感じている。 また、庁内の既存の会議を活用するだけでなく、庁外の介護・福祉事業所の会議へも参加することができ、不適切飼育状態そのものの周知と、行政への相談の必要性を伝えることができた。 さらに、人も動物も命の危険にさらされていた事例について、一時預かりの対応が実施できたことで、協働事業実施の大きな目的が果たせたと感じている。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	5	啓発物品に使用したイラストは、団体メンバーが作成することで、費用を抑えながらも高い効果を得ることができたと考えている。 既存の資料を活用したり、モノクロでも見やすい資料を作成し印刷費用を抑えたりし、経費を意識しながら、効果を追求することができたと考えている。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 里親探しのサポートでも、一時預かりの対応でも、困難な状況にある市民に寄り添いながら事業を実施でき、高い満足度を得ていると感じている。 また、事業や啓発物品の説明の場でも、介護・福祉関係者から「今までどこに相談していいかわからず、辛い思いをしたことがあったが、この事業をきっかけに相談先が分かり、とても安心した」との意見を得ている。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	市民のみならず、介護・福祉関係者らの支援者にとっても、ペットや飼い主の生活に関する不安の相談先を知ることができた。
団体のメリット	活動を進める中で、団体間の相互理解や関係が深まった。また、福祉・介護関係者の意見を聞く場や、制度に関して理解する新たな機会を得ることができた。
市のメリット	ペットや飼い主に関する課題解決の方法として、協働事業を提案・実践できる事で、市民の安心・安全を守る、という市の責務を果たすことができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

初めて実施した一時預かりの対応時に、動物が瀕死の状態だった等、事業計画を立てた際の想定を上回る事態になった。人も動物も、さまざまな状況があることを改めて意識し、行政との情報共有、柔軟な対応を心掛けて、令和8年度も事業を実施したい。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)
 行政が単独で実施
 その他 (

- 休止または終了
 団体が単独で実施

)

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

協働事業終了後の令和9年度以降も、事業を継続していけるよう、財源確保の方法も含めて、団体からも提案していきたいと考えている。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	環境部 環境保全課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	多頭飼育崩壊等の不適切飼育防止の取り組み	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	お互いが「不適切飼育を予防する・解決する」という共通の目的を持って、事業を実施できた。 また、事業初年度である今年度は、啓発物品を完成させるという目的を両者でよく理解し、計画的に進めることができた。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	5	動物に関する相談や、課題を抱える飼い主への対応について経験豊富な団体は、啓発物品の発案や説明会等の講師を担い、市は印刷物作成の技術的支援や団体のメンバー間及び関係機関との連絡調整を担うという適正な役割分担ができた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	協働事業開始前からお互いの意見交換の場の確保に努め、4月以降は、毎月1回の定例会を開催した他、メール等での情報共有も密に行い、常に共通認識を持ちながら、事業を進めることができた。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	団体と担当課で対等な立場であることを念頭に置き、啓発物品の作成や、関係機関との会議、説明を実施する際には、互いの意見を尊重し、事業を実施することができた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	団体の持つ、動物を取り巻く課題に関する知識や経験、市民目線の意見を取り入れる事で、親しみやすく、かつ実効性のある啓発物品を作成することができた他、行政単独では実施できない、一時保護対応を進めることができた。福祉部門との連携の調整をする等、担当課の役割を果たすことで、単独実施よりも高い効果を得ることができた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	年度前半に啓発物品を完成させる目標が達成でき、周知活動も着実に実施する事ができた。また、飼い主と動物の両方を救うため、一時保護の対応がスピーディーに実施できたことで、事業の目的を達成できたばかりではなく、事業の必要性を再認識することができた。 福祉や県との連携会議は目標の回数に満たなかったが、事例ごとに連携でき、かつ当初の予定になかった福祉制度の勉強会を開催できた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	5	啓発物品に掲載するイラストは、団体メンバーの中学生が作成し、内容だけでなく視覚的にも充実した啓発物品を作成することができた。 啓発物品に同封する説明書は、庁内印刷を活用することで、費用を抑えることができた。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 一時保護の対応では、受益者の命を救う対応ができ、本人だけでなく、福祉部の満足度も高かったと感じている。 里親探しのサポートでも、協働事業の協力があることで、「心強い」との意見を得ている。 また、市民の自宅を訪問し、啓発物品を直接手渡した事例では、分かりやすい資料であることと、市が団体と協働している点について、安心感を持ってもらうことができた。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	これまで名前や形、支援策の無かったペットに関する相談に対して、協働事業という明確な業務に基づくサポートを受けることができるようになった。
団体のメリット	飼い主の背景にある社会的、福祉的課題に関して、行政の専門分野の協力を得ることで、取り組みやすくなった。また、事業の周知のための説明会を実施したり、市ウェブに掲載したりすることで、団体の活動の周知にもつながった。
市のメリット	これまでの長年の活動の実績がある各団体と一緒に予防や一時保護の対応に取り組むことで、市単独で対応しただけでは無しえなかった成果を生むことができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

福祉部や県の関係機関との連絡会議が、目標の回数開催できなかったが、事例ごとの協力や情報共有を進めているため、次年度も回数や形式ではなく、内容を元に、協働事業の効果をとらえていきたい。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (提案型 提案型以外) 休止または終了
 行政が単独で実施 団体が単独で実施
 その他 ()

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入

令和8年度は引き続き協働事業を実施する。
協働事業終了後の令和9年度以降は、この協働の実績を元に、委託事業化して取り組みを継続していきたいと考えている。事業化にあたり、クラウドファンディングを含めた財源確保の方策を検討していきたい。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団体名	WAN'S LIFE 湘南里親 NPO 法人平塚のら猫を減らす会	担当課名	環境部 環境保全課
事業名	多頭飼育崩壊等の不適切飼育防止の取り組み		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

<p>「不適切飼育を予防する・解決する」という共通の目的を持って、事業の2本柱の「予防活動」「一時保護対応」を実施できた。</p> <p>さらには啓発物品の企画は団体が主体となり実施し、担当課はそのサポートをするという役割分担に沿って、お互いに対等な立場を尊重しながら、十分な協議の下に事業を展開することができた。</p> <p>また、団体と担当課がそれぞれ単独で行うよりも、高い効果を得ることができた。「予防活動」の啓発物品の説明では、団体の実体験を事例として紹介することで、参加者の危機感を高めることができた他、「一時保護対応」に関しては、行政単独では実施できない対応により、飼い主とペット、双方の命を救うことができた。</p> <p>評価については、お互いに内容を確認しあい、見解に相違がないことを確認できた。</p>
--

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

<p>団体の知識・経験を、行政の事業に反映することで、事業の目的・目標が達成できている。</p> <p>経費は市の支出となっているが、双方で意見を出し合ったり、既存の資料等を活用したりすることで、費用を抑えながら、高い効果を発揮できていると考えている。</p> <p>この協働事業では、市民や介護・福祉関係者といった受益者と直接会う機会も多く、その場で直に、意見・感想を聞くことができる。いずれの場でも、今までなかった取り組みとして、安心・安全な暮らしを支えることができていると感じている。</p>

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

市民・団体・行政の3者にメリットのある事業である点について、お互いの自己評価が一致している事を確認した。

特に、ペットに関する相談をする側である市民と、受ける側の行政にとっては、これまで明確な位置づけが無かった対応について、協働事業に基づく実施体制ができたことは、大きなメリットだと感じている。

(4) その他、課題やその改善方法など

団体、行政のお互いが感じている課題等について、内容を確認しあった。

その中で、本事業について、実施するまでの段階で、ペットは飼い主の所有物であり、行政が予算を使って支援する事に対してのさまざまな意見や、県の責任について追及すべきという意見についても再度確認した。

事業を1年間実施した中で、本事業は、制度の狭間で支援を受けられないペットだけでなく、責任を果たしたくても果たせない、要支援者としての所有者を救うために、市の取り組みとして必要であると、改めて意見が一致した。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（提案型 提案型以外） 休止または終了
行政が単独で実施 団体が単独で実施
その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

令和8年度は引き続き協働事業を実施する。

協働事業終了後の令和9年度以降は、この協働の実績を元に、委託事業化して取り組みを継続していきたいと考えている。

事業化にあたり、最大の課題は予算措置であるため、クラウドファンディングを含めた財源確保の方策を、行政も積極的に考えていきたい。

令和7年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長

団 体 名	あいあいリトミック
団体代表者	相原 真由美
事業担当課名	教育研究所、子ども教育相談センター
事業担当課長	伊沢 秀樹、中山 文恵

令和7年度に実施しました協働事業について、次のとおり事業報告いたします。

事業名	市立学校教職員へのリトミックの周知普及と活用支援事業		
事業開始年度	令和7年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	42,905 円	内 訳	市の支出 28,500 円 ----- 団体の支出等 14,405 円
事業の概要	<p>共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育を進める中、「豊かな感性や自由な表現力を育成し、音楽で五感と筋肉の感覚を使うことで心と身体の調和を目指す教育法」であるリトミックを教職員へ周知普及し、活用することを目的に、児童体験型教職員向け研修会を提供する。</p>		
具体的な実施内容	<p>・令和7年6月26日(木)の13:45～14:30(第5校時)に平塚市立崇善小学校にて「第5回特別支援教育研修会」として、事業に係る研修会を実施した。あいあいリトミックのスタッフを講師として招き、崇善小学校特別支援学級在籍児童(35名)を対象にリトミック、音楽鑑賞、楽器製作を練りこんだプログラムを行い、市内小中学校教職員が参観する授業参観型の研修を実施した。小学校教員19名、中学校教員3名、その他職員が参加し、当日の様子を動画として記録した。</p> <p>・近日中に研修会の様子を録画した動画を、市内の教職員のみが視聴できるYouTubeにアップロードし、同日付けで小中学校に対して動画の視聴が可能である旨の通知を行う予定。</p>		

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

令和7年度実施協働事業 決算報告書

	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収 入	市の支出	28,500	28,500	0	研修会費 12,542円、製作費材料費 5,878円、交通費 10,080円
	団体の支出	6,500	14,405	7,905	消耗品費として。 増減理由：携わるメンバーの数を増やしたため増額。
	事業収入	0	0	0	
	収入合計	A 35,000	B 42,905	B-A 7,905	
② 支 出	研修会費	7,000 (7,000)	25,000 (12,542)	18,000	動画の編集をやり直したため作業時間が増え、額も増えた。 高瀬@500×10H、相原(振)@500×8H、相原(真)@500×6H 携わるメンバーの数を増やしたため額も増えた。 モデル校との打ち合わせ@500×1H×2人、研修日@500×1H×6人 リハーサル@500×2H×5人 @500×4H×1人
	製作費材料費	10,000 (10,000)	5,878 (5,878)	-4,122	製作数を60個に設定していたが、実際は45個だったため減った。 製作作業 2,000円、筒 990円、シール 418円、ケース 440円、紙 1,100円、ボンボン 550円、コピー 270円、送料 110円
	交通費	11,500 (11,500)	10,080 (10,080)	-1,420	楽器運搬@1,000×5人、駐車場代@200×1 @240×3 @300×4 @400×3 @440×1 @520×1 @800×1
	消耗品費	6,500 (0)	1,947 (0)	-4,553	紙やUSB等、寄付で賄ったため減った。 PCインク 1,947円
		()	()		
		()	()		
		()	()		
	支出合計	C 35,000 (28,500)	D 42,905 (28,500)	D-C 7,905	
③	収支決算額	B 42,905 円	- D 42,905 円	= 0 円	【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	あいあいリトミック	■団体 □行政
事業名	市立学校教職員へのリトミックの周知普及と活用支援事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	4	目的は共有できたが、成果はあげられなかった。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	適正に分担できた。
③「十分に協議」を行っ ましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	3	もっと協議ができたのではないかと思う。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	4	尊重できたと思う。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	3	団体としては波及効果が得られたが、担当課には効果は得られなかった。

評価の流れ **A : 「自己」評価シート** → B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	1	教職員への活用支援ができなかった。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	2	費用対効果を求めた事業ではないので、得られなかったと思う。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など参加された教職員へアンケートを取り、目標としていた評価は得られた。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	指導者である教職員が“リトミック”を知ることで、子どもたちへ新たな教育法を取り入れられ、教育現場のコミュニケーションツール拡大につながった。
団体のメリット	多くの教育関係者へ“リトミック”の周知普及ができた。
市のメリット	

(4) その他、課題やその改善方法など

今後の活用が課題である。

(5) 今後の具体的な展開

今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)

行政が単独で実施

その他 ()

休止または終了

団体が単独で実施

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	教育研究所、子ども教育相談センター	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	市立学校教職員へのリトミックの周知普及と活用支援事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

（1）協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	4	協働事業を実施するにあたっての協議や事業実施中の中間ヒアリング等において事業の目的をお互いに確認し、共有することができた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	それぞれが本事業において何をすべきか、自分の役割を理解・把握しており、役割分担は適正にできた。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	3	行政と団体間の協議は主にメールで行っており、相対しての協議も行ったが「十分に」というほどにはできなかった。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	4	どちらかが「主」「従」ということはなく、お互いの役割を認識しながら対等な立場で実施することができた。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	3	団体が単独で実施するよりも広い範囲に周知することはできたと思うが、相互効果や波及効果があったかという点、そこまでの効果はなかったように思う。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	3	事業目的のひとつであるリトミックに関する児童体験型教員向け研修会を開催することができた。研修会の様子を記録した動画については作成・編集に思いのほか時間を要し、配信が遅れてしまった。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	3	研修会の開催及び研修会の様子を記録した動画の配信等、サービスは提供できたが、周知普及という面では効果が測れていない(不明)。ただ、研修会後に実施したアンケートで「団体に学校に来てもらいたい。」という意見もあり、ある程度の周知はできたと考えている。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など リトミックを体験した児童が、楽しそうに活動に参加している様子が見られた。研修会に参加した教員からは、「活動内容が参考になった」「自立活動等で生かしたい」という感想が聞かれた。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	児童にとっては、生演奏に触れ、音楽を楽しむ貴重な機会となった。教員にとっては、リトミックを学校での教育活動に取り入れることができるかどうか考える機会となった。
団体のメリット	
市のメリット	市民団体の専門性を生かした新しい形での研修会を行うことができた。リトミックを学校教育に取り入れたいというニーズがあった際に対応できる研修資料を得ることができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

- ・研修会の実施時期について、もう少し検討が必要であった。
- ・研修内容について、幅広い年齢で(中学生にも)活用できる内容にできるとよかった。
- ・スケジュールどおりに予定を進めていくことが難しかった。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)
 休止または終了
- 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
- その他 ()

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団体名	あいあいリトミック	担当課名	教育研究所、子ども教育相談センター
事業名	市立学校教職員へのリトミックの周知普及と活用支援事業		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

事業の目的を互いに共有し、本事業における役割分担も適正に行うことができたが、協議の時間を十分に確保することができなかった。互いに立場を尊重し、対等な立場で事業を実施することができ、単独で実施するより効果はあったと思われるが、波及効果という観点においては、行政側は効果が得られなかった。(団体としては波及効果が得られた。)

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

行政と団体が協働することにより、単独で実施するより広範囲に周知することができ、目的の一つは達成することができたのではないかと。団体として教職員への活用支援ができなかったという評価だが、研修会に参加した教員からは「参考になった」「自立活動等に生かしたい」といった声も聞かれた。また、動画を配信することにより間接的ではあるが研修に参加できなかった教員に対する支援にもつながっていると考えている。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

